

【講座の概要】

令和 5 年 5 月 17 日付で、一宮町指定文化財となった「玉前神社社家日記」。幕末の天保 15 年(1844)から嘉永 5 年(1852)にかけての日記(弘化 4 年分はなし)で、上総国一之宮であった玉前神社の社家であった風袋、飯塚、宮本、小塚、高原の 5 家が共同で記録したものです。

社家が担っていた上総神楽の奉納に関する記事や一宮藩に関わること、異国船の出没、盗人の出没、年中行事など記された内容は多岐にわたります。特に弘化 2 年(1845)4 月 5 日に一宮海岸で行われた軍事操練については藩主の装束、隊列など細かく記され、多くの見物人がいたことが記されています。

今回の講座では、幕末の一宮について、社家日記の記述から迫っていきます。



▲絵葉書「(上総一宮)玉前神社」(戦前)

【表面の解説】

○(一番右)「小盗流行」

- ・天保 15 年(1844)6 月から 7 月、一宮本郷村の町中では放火が相次いでいたようです。

○(右から 2 番目)「殿様熊毛之陣羽織」

- ・弘化 2 年(1845)4 月 5 日、海岸で行われた操練で藩主・加納久徴は「熊毛の陣羽織」を着ていたようです。

○(右から 3 番目)「異船沖ニ相見候」

- ・弘化 2 年(1845)2 月 29 日、九十九里沖に異国船が出没したようです。

○(右から 4 番目、5 番目)「当春以来不漁打続」「汐祭可相催旨」

- ・嘉永 4 年(1851)正月、不漁が続いていることから、玉前神社は汐祭（大漁祈願カ）を行うことを決めたようです。

○(一番左)「社中一同」「神楽」